



美しく咲き誇った、竜舌蘭



## 30～50年に一度だけの開花

天草キリシタン館で竜舌蘭の花が咲く

7月初旬から8月初旬にかけて、天草キリシタン館（船之尾町）の敷地内に生育している植物「竜舌蘭」の花が咲きました。この植物は、リュウゼツラン科の常緑多年草で、メキシコ原産。お酒のテキーラは、この植物を原料にして作られています。日本では、葉の形状が竜の舌を連想させることからこの名前が付いたといわれており、30～50年に一度だけ開花し、その後は養分を使い果たして枯れてしまうという珍しい植物です。

同館の竜舌蘭は、昭和41年ごろに植栽。6月中旬から茎が伸び始め約3メートルになり、茎の先にはあざやかな黄色の花を咲かせ、来館者の目を楽しませていました。

## 昼間の火災に迅速に対応！

市消防団機能別団員制度

市では今年度から、消防団のOBが同団に再入団して、昼間の火災時に出動する「機能別団員制度」を導入し、市内の各消防団に105人が入団しました。7月31日には、機能別団員の代表8人をはじめ、市消防団団長と副団長、安田市長が参加して市役所本庁で辞令交付式を実施。松下智洋・市消防団団長から辞令書がそれぞれ手渡されました。参加した団員は、「地元のためにがんばりたい」と話していました。



▲辞令書を受け取る機能別団員



▲ホタルの幼虫を放流するようす

## 元気に育ってね！！

ホタル放流事業

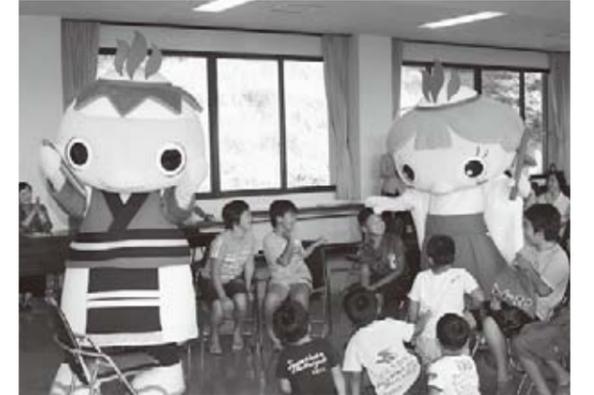
7月14日、御所浦町嵐口地区にあるふれあい交流広場内の小川で、「ホタル放流事業」が行われました。これは、嵐口地区振興会と御所浦アイランドツーリズム推進協議会が毎年実施しているもの。今回は、天草郡苓北町立坂瀬小学校の児童や保護者のほか、地元の子どもたちなど60人が参加し、ホタルの幼虫約2,000匹を一斉に放流。その後は交流会が行われ、参加者は楽しいひとときを過ごしていました。

## “すもっち”と“すもりん”がやってきた！

栖本かっぱ王国イメージキャラクター

栖本かっぱ王国（栖本まちづくり協議会）のイメージキャラクター“すもっち”と“すもりん”が、栖本町内で行われた各種イベントに登場し、にぎわいを見せました。8月8日には、栖本支所で行われた栖本図書室試行移動記念式典に登場。参加していた子どもたちは、突然の訪問者に驚きながらも、その愛らしい姿に笑顔を見せていました。

今後も、町内外で開かれる催しに登場する予定です。見かけたらぜひ、声をかけてください。



▲“すもっち”（左）“すもりん”（右）の登場に笑顔を見せる子どもたち

## 地区住民や帰省客で大にぎわい！

上津浦地区盆踊り大会

8月12日、有明町の旧上津浦小学校跡地で「上津浦地区盆踊り大会」が開かれました。同大会実行委員会が毎年この時期に開催しているもので、今回で10回目。かき氷や金魚すくいなどのバザーが軒を連ね、保育園児による踊りの披露、特設ステージではカラオケ大会やお楽しみ抽選会などを実施。地区住民や帰省客など約400人の人出でにぎわいました。

参加した帰省客は、「小学校の同級生と会って近況を報告しあうことがいちばんの楽しみ。やっぱりふるさとっていいものですね」と笑顔で話していました。



▲踊りを披露する園児たち

## 新和ならではの暮らしを満喫

民泊事業

新和町の宮南半島ツーリズム推進協議会では7月28・29日、町内の各家庭に寝泊りをしながら各種体験をしてもらう「民泊事業」を実施し、県北地域などに住む子ども29人が参加しました。これは、竜洞山緑の村主催によるサマーキャンプの催しのひとつとして行われたもので、今回で3回目。子どもたちは、10の家庭に分かれて、船で沖合いに出て魚釣りをしたり、各家庭の家族とともに夕食作りをしたりして、新和ならではの暮らしを満喫していました。



▲釣った魚を誇らしげに見せる子ども